

4-4 千種地域

4-4-1 千種地域の概況

(1) 位置・人口

千種地域は、本町の中央部に位置し、町域の30.0%を占める大きな地域です。

地域の東部が都市計画区域、西部が都市計画区域外で概ね鈴鹿国定公園となっています。

潤田、三滝園及び千草工業団地が市街化区域に指定されています。

人口は5,871人で町全体の14.1%を占めます。人口は市街化区域内である潤田周辺に集積しています。町全体に比べ、年少人口比率が低い(13.0%)のに対し、老年人口比率が高く(30.6%)、少子高齢化が進んでいます。

(2) 土地利用

平地部に広がる集落・農地、三重県民の森やレクリエーション施設がある山麓部、山林が中心の鈴鹿国定公園が連なっています。

新名神高速道路菰野 IC が開設され、大規模な土地利用転換が進んでいます。

表 4-3 千種地域の概況

総面積	3,224.0ha
全町における割合	30.0%
市街化区域	94.7ha
市街化調整区域	1,377.4ha
都市計画区域外	1,751.9ha

	菰野町	千種地域
人口(人)(H31.4.1)	41,738	5,871
割合(%)	100.0	14.1
世帯数(世帯)	16,461	2,231
平均世帯人員(人/世帯)	2.5	2.6
人口密度(人/ha)	3.9	1.8
年少人口比率(%)	14.1	13.0
生産年齢人口比率(%)	60.3	56.4
老年人口比率(%)	25.6	30.6

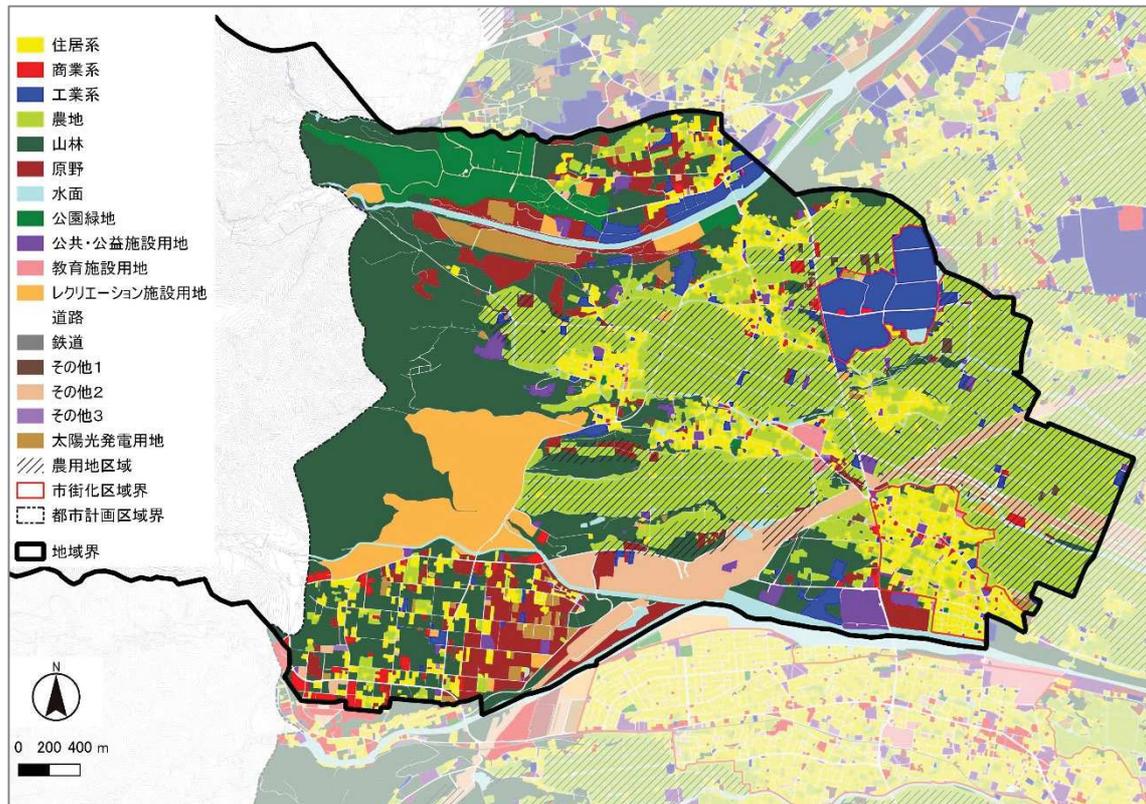


図 4-10 土地利用現況図 (平成 30 年)

資料: 平成 30 年度都市計画基礎調査

(3) 都市機能

菰野町役場本庁は地域南部に位置し、小学校、幼稚園・保育園、地区コミュニティセンターは地域の中心部に集積しています。

また、地域の公共交通はコミュニティバスが中心ですが、南部では菰野町のりあいタクシーも利用することができます。バス停等からの公共交通利用圏域*の人口カバー率は70.0%となっています。

※公共交通利用圏域：バス停・菰野町のりあいタクシー乗り場から半径300m

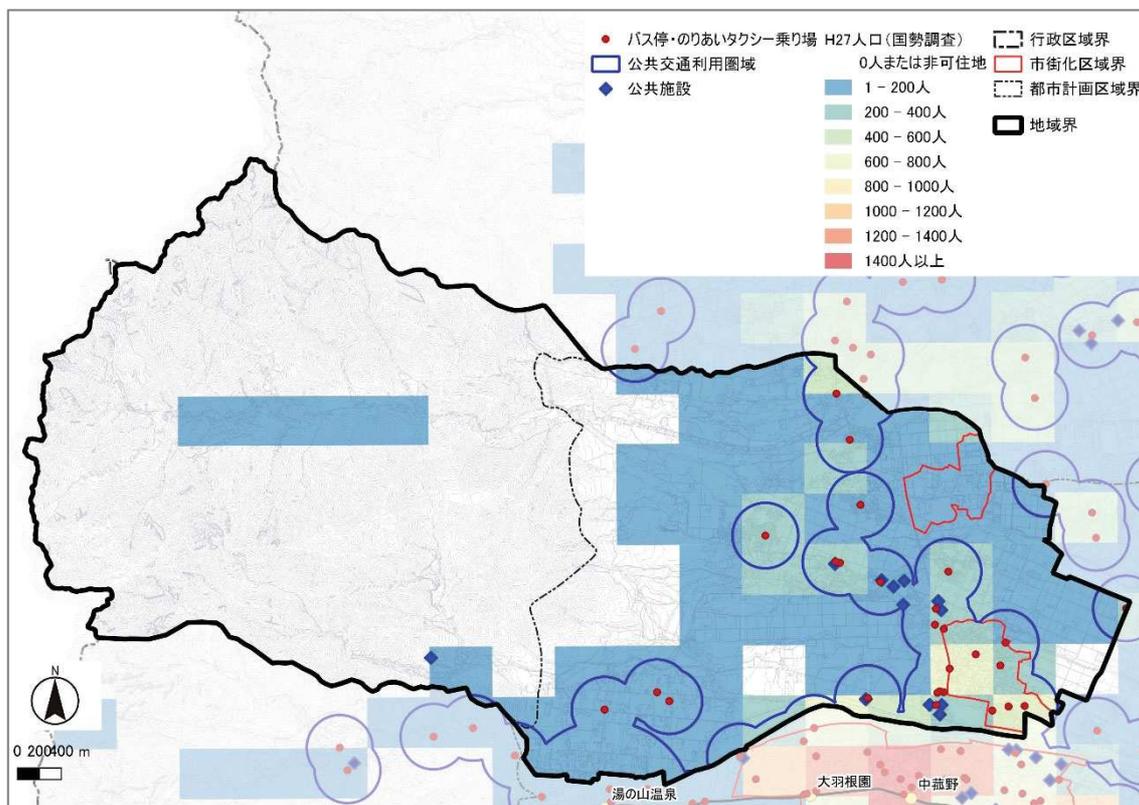


図 4-11 公共交通利用圏域

(4) 道路

新名神高速道路、国道477号バイパスの整備等により、広域交通のアクセス性が飛躍的に向上しました。地域内の道路は幅員4～8mの道路を中心に構成されていますが、集落内には4m未満の狭隘道路も存在しています。

(5) 開発動向（農地転用、新築動向、宅地開発）

農地転用や新築等の開発動向は、市街化区域内や既存集落を中心に分布しており、潤田地区では新たな宅地開発が見られます。

(6) 災害リスク等

地域西部の鈴鹿山脈一帯では土砂災害等のリスクがあり、山麓部沿いには活断層が存在します。

また、地域内の河川沿いの一部では、浸水リスク箇所があります。

(7) 地域資源

鈴鹿国定公園や地域を流れる三滝川や朝明川の豊かな自然環境が残されています。また、三重県民の森や朝明緑地といった地域の自然を活かした施設が立地しています。

(8) 町民ニーズ

町民アンケート調査では、「お住まいの地域全般」について約6割の人が「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答しています。

項目別では、「空気や川の水のきれいさ」や「住まいの日照や風通し」が、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した人の割合が高くなっています。反対に「バスなどの公共交通の便」や「商店の充実など、買い物の便のよさ」が、「不満である」または「どちらかといえば不満である」と回答した人の割合が高くなっています。

また、地域別ワークショップでは、「交通環境の改善」や「自然景観の保全」、「人とのつながり」等の意見が多く出されました。

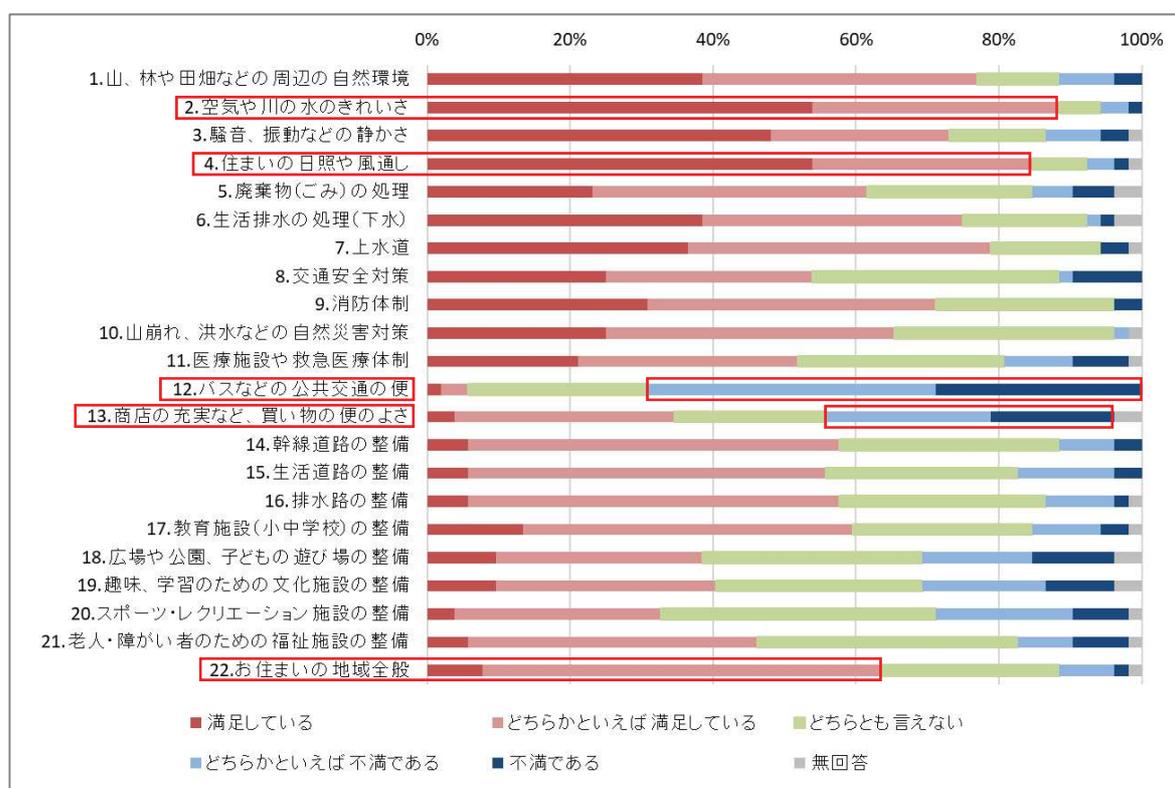


図 4-12 項目別地域の満足度（町民アンケート結果）

4-4-2 千種地域のまちづくりの課題

- ◆新名神高速道路が建設され、大規模な土地利用転換が進んでおり、菰野 IC 周辺地区や潤田地区等では新たなまちづくりが進んでいます。
 - ⇒ 本町の新たな拠点にふさわしい都市機能の誘導と景観形成等、周辺環境に配慮した計画的な土地利用が求められます。

- ◆地域の東部から西部にかけて平地から丘陵地、山地が連なる起伏のある地形を成しており、鈴鹿国定公園や地域を流れる三滝川や朝明川の豊かな自然環境が残されている他、三重県民の森や朝明緑地といった地域の自然を活かした施設が立地しています。
 - ⇒ 菰野 IC の開設を契機とした観光客の増加を見据え、優れた自然環境を活かし、地域の魅力向上と観光客等が安心して過ごせる環境づくりの推進が求められます。

- ◆既存集落では、少子高齢化や人口減少による集落の活力衰退や農業の担い手不足等が懸念されます。
 - ⇒ 農業振興と併せて、集落機能の維持・活性化を促進することが求められます。

- ◆新名神高速道路菰野 IC の開設や、国道 477 号バイパスの整備等により、広域交通のアクセス性が飛躍的に向上しました。一方で、菰野 IC の開設に伴う交通流動の変化により、周辺地域の渋滞等の発生が懸念されています。
 - ⇒ 菰野 IC 周辺における道路整備等、良好なアクセス性の確保が求められます。

- ◆集落内には狭隘道路が多く、歩行者や災害時の緊急車両の通行に支障をきたす可能性があります。
 - ⇒ 地域の交通利便性向上のため、主要幹線道路や生活幹線道路の道路機能の強化を促進するとともに、地域住民の理解を得ながら、狭隘道路の解消に努めることが求められます。

- ◆公共交通については、菰野町のりあいタクシーが運行される等、利便性向上に向けた取り組みが進められていますが、町民アンケートでは、「バスなどの公共交通の便について」の満足度は低くなっています。
 - ⇒ 高齢化や環境負荷に対応するため、公共交通によるアクセス手段の確保が求められます。

- ◆町民アンケートでは、「広場や公園、子どもの遊び場の整備」への満足度は低くなっています。
 - ⇒ 地域住民との協力のもと、地域の子どもや町民が安全かつ安心して利用できる公園・広場等の整備が求められます。

- ◆地域西部の鈴鹿山脈一帯では土砂災害等のリスクがあります。
 - ⇒ 災害時における地域住民等の安全確保のため、異なる災害リスクに対応した防災対策を推進することが求められます。また、森林や農地の有する多面的機能を踏まえ、適正な維持・管理のもとで、保全・活用が求められます。

4-4-3 千種地域のまちづくり方針

(1) まちづくりの目標

自然環境と新都市拠点が調和する地域づくり

地域資源を生かした魅力向上と安心して過ごせる環境の充実を図り、自然環境と新都市拠点が調和した人とのつながりを大切にする地域づくりを目指します。

(2) まちづくりの方向性

■ 菰野 IC 周辺における計画的な土地利用の誘導

新名神高速道路菰野 IC 西側については、工業・流通系の土地利用を進める地区として産業基盤の形成を目指します。

また、新名神高速道路菰野 IC 東側については、既存の都市機能に加え、商業・業務・住居系等の新たな都市機能の導入を目指します。

■ 菰野 IC 開設による変化等に配慮した交通の円滑化

幹線道路を結ぶ交通ネットワークの整備・充実と交通対策の強化等により、菰野 IC 開設に伴う交通の変化や観光シーズンの渋滞等に対応したまちの実現を目指します。

■ 本町の新たな玄関口としての魅力向上と環境充実

本町の新たな玄関口となる、菰野 IC 周辺や近鉄湯の山温泉駅周辺で観光・レクリエーション機能の集積を目指すとともに、交通・防災対策の充実による観光客が安心して過ごせるよう街の実現を目指します。

鈴鹿山脈の森林や平地部の田園等、地域の自然環境の保全を目指します。また、三重県民の森や朝明緑地、三滝川や朝明川等の地域資源の活用を目指します。

(3) まちづくりの方針

①土地利用の方針

○菰野 IC 周辺

- ・ 新名神高速道路菰野 IC 西側の音羽地区については、工業・流通系の企業の立地誘導を促進します。
- ・ 新名神高速道路菰野 IC 東側の潤田地区については、商業・業務・住居系の土地利用の誘導と新たな都市拠点としての活性化を促進します。
- ・ 菰野町役場本庁の東に位置する潤田地区は、地区計画に基づき、地区の良好な自然環境及び都市的な環境を生かした新しい住環境づくりを計画的に推進します。
- ・ 菰野町役場本庁西側の区域については、無秩序な宅地化を抑制しつつ、菰野 IC 近接の好立地を生かした計画的な土地利用の誘導に努めます。

○千草工業団地周辺

- ・ 千草工業団地は、周辺を優良な農地に囲まれていることから、周辺環境に配慮しつつ、街区の維持・拡充に努めます。

○山林・山麓部

- ・ 山林・山麓部の自然林等の自然環境の保全に努めます。
- ・ 三重県民の森、朝明キャンプ場等の観光・レクリエーション機能を充実させ、地域住民及び観光客等の交流の場として活用します。
- ・ 山地災害の防止、水源のかん養、地球温暖化の防止等の公益的機能のほか、生物多様性、林産物の供給等の多面的機能を有している森林については、町民や来訪者の安全確保に向け、適正な維持・管理を促進します。

○農地・集落

- ・ ほ場整備された優良な農地の保全に努めます。
- ・ 既存集落については、地域コミュニティを維持しつつ、田園環境と調和した良好な住環境の形成を促進します。

○土地利用の規制・誘導の方針

- ・ 新名神高速道路菰野 IC 周辺地区の工業・流通系の立地誘導を推進するエリアについては、市街化区域への編入を前提に土地区画整理事業等の面的な整備を推進するとともに、特別用途地区の指定等により周辺環境に配慮した良好な工業専用街区の形成を促進します。
- ・ 新名神高速道路菰野 IC 周辺地区の商業・業務・住居系の立地を促進するエリアについては、土地区画整理事業による面的な整備のもと、良好な住環境等の形成を促進します。
- ・ 上記以外のエリアについては、森林や農地等が中心の土地利用を維持・保全に努めます。ただし、新都市拠点としての機能強化等のために、開発等が求められるエリアについては、各種制度等の活用により、計画的な土地利用の誘導を促進します。
- ・ 市街化調整区域内に点在する既存集落については、地域の特性や熟度に応じて各種制度等を活用し、集落の維持・活性化を促進します。

②生活環境の充実方針

- ・ 上水道施設の機能維持と下水道事業等の整備を推進することで、生活環境の維持・向上に努めます。

③交通施設の整備方針

○主要幹線道路（広域・地域幹線道路）

- ・ 国道 477 号バイパスについては、地域間を結ぶ広域幹線道路であり新名神高速道路菰野 IC へのアクセス道路としての整備を要望します。
- ・ 町道千草川北線については、沿道で工業系土地利用が進んでいることから歩道整備や幅員確保等による道路機能の強化に努めます。
- ・ 国道 306 号については、幅員確保等による道路機能の強化、渋滞対策等を県に要望します。

○生活幹線道路

- ・ 新名神高速道路菰野 IC へのアクセス道路となる町道潤田鳥居戸線（Ⅱ）については、町の新たな玄関口として、歩道整備等による歩行空間の安全性・快適性の向上や道路機能の強化を推進します。また、県道千草永井線から新名神高速道路菰野 IC へのアクセス道路の整備を推進します。
- ・ 町道潤田南部開発道路については、県道四日市菰野大安線から菰野町役場本庁や保健福祉センター、図書館等を結ぶ東西の軸として整備を推進します。

○生活道路

- ・ 集落内の狭隘道路については、集落地の安全性の確保や通学路の安全対策等として拡幅整備等を促進し、安全な生活道路の確保に努めます。

○公共交通

- ・ 近鉄菰野駅、公共施設及び商業機能の集積する地域等と連絡するコミュニティバスや菰野町のりあいタクシー等により、公共交通の充実に努めます。

④田園環境の保全方針

○公園の適切な配置と緑化の推進

- ・ 公園・広場については、地域住民と協力し、安全で安心して遊べる子どもの遊び場や地域住民の憩いの場となる身近な公園・緑地の整備に努めます。
- ・ 朝明緑地は、町民の憩いの場として、維持・管理に努めます。
- ・ 朝明川においては、自然と親しめる水辺空間を創出するとともに、朝明緑地、東海自然歩道や三重県民の森に連絡する水と緑のネットワークづくりに努めます。

○良好な景観の形成

- ・ 鈴鹿山脈の雄大な自然や平地部の田園風景、朝明川の流れ、丘陵地等は、町の豊かな自然を感じる景観を構成する要素であり、自然景観を形成する緑地として再生に努めます。
- ・ 菰野 IC 周辺地区は、新都市拠点として歩行者空間及び沿道空間の整備により良好な景観形成に努めます。
- ・ 幹線道路沿道については、緑化・修景を推進することで、良好な沿道景観の形成を促進します。

⑤防災まちづくりの方針

- ・ 山林・山麓部においては、急斜面等における安全性の向上のため、砂防事業や急傾斜地崩壊対策事業による整備等の防災対策の実施を県に要望します。また、森林の有する山地災害の防止、水源のかん養、地球温暖化の防止等の多面的機能を踏まえ、適正な維持・管理に努めます。
- ・ 避難場所や避難路の整備等、防災対策を推進します。特に、避難路については、整備が必要な箇所の整理、事業実施の検討を進め、必要な路線に対して、計画的かつ優先的な整備の実施に努めます。

- ・ 既存集落においては、狹隘道路の拡幅整備等の促進、道路側溝や用排水路の維持管理及び安全対策、既存公園の活用・再整備、空地の利用による空間確保等により、災害時の安全性向上に努めます。
- ・ 朝明川等地域内を流れる河川については、水害対策を図る等安全性の向上を働きかけるとともに、県管理河川での浚渫工事の実施を県に要望します。
- ・ 新たな対流拠点となる菰野 IC 周辺及び近鉄湯の山温泉駅周辺を近鉄菰野駅周辺と相互に結ぶエリアを中心に安全かつ快適な時間と場所を提供できる防災対策の実施を検討します。

⑥観光まちづくりの方針

- ・ 新名神高速道路菰野 IC の開設を契機として、外国人観光客の誘客も視野に入れた広域観光に他の市町と協働での取り組みを関係機関との協力のもと促進します。
- ・ 新名神高速道路菰野 IC 周辺に新たに整備される市街地や、観光向け施設が立地する近鉄湯の山温泉周辺、鈴鹿国定公園や朝明緑地、三滝川、朝明川等の自然、三重県民の森やゴルフ場等スポーツ・レジャー施設、地域にある多様な観光資源を活用するため、これらを結ぶ周遊ルートの形成や、散策ルートの整備等、観光拠点相互の魅力向上に努めます。
- ・ 新たな対流拠点となる菰野 IC 周辺と近鉄湯の山温泉駅周辺を相互に結ぶエリアについては、観光客の利便性や快適性を高めるため、鉄道、バス事業者及び地域関係者等と協働して環境整備を促進するとともに、観光シーズンにおける自然環境及び観光客と地域住民に配慮した渋滞緩和等の交通対策に努めます。

